



**Mr. 池崎の**

**ブラジルから**

**Boa tarde!**

(ポア ターラジ! : こんにちは!)

**第2回目 6月19日(土)~6月25日(金)までのレポート**

## 6月20日(日)クリチバ市内観光、バスにて

今日の休日は、一人でゆったり過ごすことができました。いろいろな方のお誘いもうれしいのですが、気を遣い緊張もするので、たまには一人も気楽で良いものです。

今日は、かねてから一度乗ってみたいと思っていたクリチバ市内観光バス(Linha Turismo)で市内観光することにしました。自分でバスに乗れるかという心配もありましたが、度胸で挑戦することにしました。このバスは、主な観光名所 25 カ所に立ち寄るバスで、20 レアルを支払うと 5 回分乗り降りができる優れものです。観光パンフ(ポルトガル語と英語のみ)を片手に出発しました。

バスは、写真のようにいかにも楽しくなるような色のバスで、しかも 2 階建て。2 階には屋根が無く、オープンカー状態になっています。風を切って走るのでも爽快でした。



初めに行ったところは、Jarjim Botanico(植物園)です。27 万 8000 m<sup>2</sup>の敷地に緑豊かな



庭園のほか、独創的な形をした植物園、また、隣には美術館もあり、絵画や樹木をモチーフにした作品などが展示されていました。園内は、大変手入れが施され、しかもものんびりとした雰囲気が漂い、一日何も考えずゆったり過ごすには最高だろうなと思いました。



植物園・美術館でかなりゆったりした後、次の目的地として選んだのは、「パウロ 2 世の森」と「ドイツの森」です。パウロ 2 世の森は、別名「ポルトガル記念」と言われ、ポルトガル移民を記念して作られたそうで、獣脂のろうそく工場の建物が 7 棟と森林遊歩道がありました。森林浴をするには良いところだと思いました。ドイツの森も同じように森林遊歩道があり、ここの遊歩道には写真のようなグ

リム童話の絵が順に掲示してあり、楽しく歩くことができるようになっていました。ブラジルには、このような、森や公園が多いため、先日も紹介した展望台からの眺めにも緑が多く見えたのだと思います。

バス乗車中に、日本では見られない光景を見たので写真を撮りました。交差点で止まっている車の脇で青年が何かしています。これは、ブラジルの旗を売っています。交差点では、青年や少年がこんな風になにかを売ったり、チラシを配ったりする光景が結構見られます。



今日のところは、3 カ所だけ巡りましたが、時間があれば、他の場所にも行ってみたいものです。すでに、こちらの方に案内していただき訪れたところも何カ所かありますが、24 カ所全部回るとクリチバの通になれるかもしれません。

## 6月21日(月)クリチバ南部地域教育事務所

Parana 州には、32 の教育事務所が置かれ、広大な州を地域ごとに分け教育行政を行っています。今日は、その、教育事務所内の一つであるクリチバ南部地域の教育事務所を訪問しました。

今日訪問した教育事務所では、14 市、132 校の州立の小中高(主に中高)を管轄しているそうです。ここが直接、州立の学校を管轄・指導・支援するので、「教育事務所」とは言え、ここが豊橋市教育委員会と同様な働きをすることになります。説明の方の言葉を借りると、「州の教育局（県教委）と学校の架け橋になっている」ということです。

訪問中に印象に残った 1 点目は、ここで働く人が 98 名、そのうち学校指導担当が約 7 割（約 70 名）ぐらいということ

です。豊橋市と比較し、学校数は約 2 倍弱なのに、指導担当人数が 4～5 倍いることとなります。全体の説明を受けた後、各部所ごとに説明・質問の応答をしましたが、人数が多くうらやましく思った部所がいくつもありました。特に、左写真の部所は、保護者からの苦情を処理する部所だそうです。話の内容を聞いてみると、豊橋市教委が対応している



ことと同じように、主に電話での苦情を受け、それについて学校へ文書で連絡し、学校から実状・対応等の報告を受け、保護者や教育局の対応へと持って行くそうです。長い電話では 1 時間も 2 時間も対応しますが、保護者の思いは、問題の解決よりもまず聞いてほしいということで、どこも同じなのだと思いました。一ヶ月に 10～15 件の苦情がくるそうです。

2 点目は、子どもや保護者の学校選択についてです。ブラジル国内には、基本的に州立・市立の学校が混在しています（もちろん私立も）。私は、自分が通う学校は、自由に選択ができるものと思っていました。しかし、話によると昔はそうでしたが、現在は、自分の居住地区にある学校に通学するように決まっているそうです。これが Parana 州以外でも同じか分かりませんが、日本と同じ形式に変えてきたそうです。この話を聞いて、日本では東京の一部を初め、少しずつ学校選択制へと流れはじめている現状からすると逆方向に進んでいると感じました。ブラジルでは、昔、自由選択制時にいろいろな問題を抱えたためこのように変えたそうです。考えさせられるものがありました。

3 点目は、教員人事のことです。教員は、自分が転勤希望を出さない限りずっと同じ学校で勤めることができるそうです。何らかの理由で自分が希望すれば、転勤するそうです。この時には、疑問に思い、学校の活性化・均質化、教師の意欲向上・指導力向上の面からも日本の人事異動のシステムを紹介したところ、大変興味深く聞いてくださいました。

これまでの州教育事務所より現場に近い機関への訪問で、より具体的な話を多く伺うことができ、新しい刺激を頂くことができました。



## 6月22日(火)VILA da CIDADANIA 訪問と表彰式参加

ブラジルでは午前・午後の2部制を採っており、子どもたちはそのどちらかで学校へ通学しています。しかし、今日紹介する施設は、その制度を生かし、豊橋には無い教育をしている施設「VILA da CIDADANIA」です。

ここでは、5年生から高校生まだが、環境・安全・人としての意識・文化・交通について、学校で学習する以上の内容を体験的に学習するためにプログラムが組まれています。6ヶ月間で6～8回ここを訪問し、学習を深めます。日本でいえば総合的な学習を校外施設で行うというものです。

写真はその施設の上空写真です(約3万km<sup>2</sup>)。いろいろな施設があり、その施設を活用しながら学習を進めます。もともとは、ある企業が始めた事業ですが、今は、Parana州が全面的にその企画・運営を行っています。



下の写真は、「人として意識」の学習の一コマで、選挙での投票方法を学習しています。

ブラジルは、選挙権のある年齢に達したら、全員が義務で投票しなくてはならず、投票率は100%だそうです。ですから、誰もが投票方法を知っておく必要があります。さらに、日本とは異なり、広大な国土内での集計をするために、投票処理はすべて機械で行われます。写真は、その操作方法の学習です(説明をしているのが、所長のデラレフ氏。説明を受けているのが通訳のアケミさん)。

このような学習を初め、この施設内を活用し、体験的に学習を深めていきます。ただ、この教育の大きな目的は、一日制学校とは別の視点で「一日制教育」を行うこと。そして、詰め込みの知識ではなく、「人」を育てたいという思いがある。

と、デラレフ氏は話していらっしゃいました。帰り際に、午後の部を受講するために来ていた子どもたちと食堂で会ったので、一緒に写真を撮ってもらいました。子どもたちは、ここの学習はとても楽しいと言っていました。



今日は、もう一つ紹介することがあります。夜、移民102周年記念式典があり、日系社会並びにParana州に貢献した方々を表彰する会がありました。スポーツや文化面でご尽力された方々を対象としたもので、Parana州議会が表彰します。受賞者に向かって右側にいる方が西森議員で、この方の発案で州議会の承認も得、2003年から行われています。この



ような方々により日系社会は支えられてきたのだと分かりました。表彰式後の懇親会には、私も招待されただけでなく、式に参加された皆さんに紹介され、一言話す機会も作っていただきました。また一つ交流機会を増やすことができ、私にとっても貴重な会となり、うれしかったです。

## 6月23日(水)SUDE 訪問



今日は、SUED という機関を訪問しました。教育に関するハード面に関わる部門で、豊橋で言えば、総務課といった感じですが。内容的には、建築や施設・事務・給食事務・物品管理・教員や生徒数管理を行っているようです。

建築・施設面については、教育改革の展開に向け、より多くの校舎を造る必要は感じているものの、政策推進がようやく始まったところで、まだ長い年月を必要とすると考え、その方向性だけは大事にしたいと考えていました。また、建築予定校舎は、日本のように同じスタイルの校舎を建築しようと構想中で、モデル的な校舎の青写真を紹介して下さった。

給食事務の話では、2部制のため、午前の部は10時頃に、午後の部では3時頃に軽食を用意し、特に、貧しい地区の学校では、家庭で十分な食事を採ることができないという現実から、軽食というよりは栄養バランスを考えた食事を提供しているとのことでした。食事については自校で作成し国の補助により無料で提供されているとのことでした。また、子どもの栄養バランスの観点から、最近体重測定を始めたと言っていました（肥満が多い）。これまで、身体測定を含めた健康管理をいっさい行っていなかったということにびっくりもしました。この時には、日本の給食システム、そしてその意義、また、健康管理としての健康診断についても紹介しました。

子どもの在籍管理に関する話の中では、転入生の転入学年について質問をしました。ブラジルでは、すべての子どもの在籍だけでなく、成績までコンピュータ管理されており、その子の能力を把握しているため、転入時にもその子の能力に相当する学年に転入することになっているそうです。日本のように、年齢相応の学年に転入するシステムとは基本的に異なるようです。日本の年齢相応学年システムの意義を話し、単に知識や能力だけで学年を決定のではなく、子どもの人間関係や成長を考慮していることを説明した時には納得していただきました。

話は変わりますが、帰り際に、ちょっと目にした部屋の天井に巨大なブラジル国旗が取り付けられている部屋がありました。ワールドカップでのブラジルを応援する部屋の飾り付けのコンテストをこの職場でしたそうで、この部屋がコンテストで優勝したそうです。部屋一面の国旗にはブラジル国民の熱い思いが感じられました。



今日の訪問とは全く関係ありませんが、クリチバ市内の様子をちょっと紹介。すべての家が、写真のようにフェンスで囲まれています。防犯用です。治安の面では、やはり心配な土地柄のようです。

